

## 会議録

会議の名称	平成23年度 第3回西東京市健康づくり推進協議会議
開催日時	平成24年1月16日（月曜日） 午後1時15分から
開催場所	西東京市役所 防災センター6F 講座室2
出席者	石田会長、内田副会長、橋岡委員、永田委員、新倉委員、平田委員、石井委員、池田委員、高梨委員、高西委員、高橋委員、田中委員、大堀委員、
議題	(1) 西東京市健康づくり推進プラン策定を検討する体制について (2) 西東京市健康づくり推進プランの指標について中間結果の報告
会議資料の名称	平成23年度第2回西東京市健康づくり推進協議会議事録(案) 資料1 健康づくり推進プラン策定を検討する体制について(事務局案) 資料2 健康づくり推進プランの中間結果
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 会長挨拶</b> ○会長： 今回の議事について「(1) 西東京市健康づくり推進プラン策定を検討する体制について」は後ほど事務局より説明を受け、議決し決定する。「(2) 西東京市健康づくり推進プラン指標について中間結果の報告」は目標値の進捗状況を報告してもらおう。こちらは忌憚のない意見をいただきたい。</p> <p><b>3 議事</b> ○事務局： 資料確認。傍聴人報告（0人） 第2回協議会議事録の確認。修正等なく、承認された。</p> <p>(1) 西東京市健康づくり推進プラン策定を検討する体制について ○会長： 次期健康づくり推進プラン策定のために、本協議会の他に事務局と一緒に案を検討・作成する組織が必要であると考え。前回は健康づくり推進プラン策定委員会を立ち上げて作ったものを協議会に提出してもらった。その際の反省点として、成人と小児では若干ニュアンスが違ったため、小児については専門家の参加が必要との意見があった。</p>	

体制について事務局より案の説明をお願いします。

○事務局：

資料1 説明

○会長：

この点に関して、質問、意見等があればお願いしたい。構成員に関しては前回とは変わっているのか。

○事務局：

基本的には変わっていないが、人数が変更になったことと、2グループに分けた。トータルとしては前回と変わりはない。

○会長：

検討期間が5月～12月と短い、ハードではないか。

○事務局：

初回に案を示したい。前は比較するものがない中での作成だったが、今回は国から評価されたものが出てくる。3月までにこれまで評価いただいたものを、意見として策定委員に渡すので、ある程度、どういうことが課題になっているのか、どういうところを視点にしたらいいのか等を見ながらの議論なので、絞った形で進めるような方向で考えている。

○会長：

策定委員会が決めるのではなく、この協議会の意向を反映し、ある程度、骨子を作るということ。詳細は策定委員会にお任せし、そのチェックを協議会でやっていく。特に問題がなければ決定とする。（異議なし）前回の反省点として小児の専門家がいなかったのも、策定が大雑把になったが、今回は専門家が参加しての検討とする。

○事務局：

策定委員メンバーについては、事務局にて改めて調整する。

## **(2) 西東京市健康づくり推進プラン指標について中間結果の報告**

○事務局：

資料2 説明

○会長：

がんと循環器疾患がむしろ悪くなっていることはショックだ。また最終的な総合目標の数値がまったく上がっていない。（総合目標が達成されていない。）健康づくりプランが認知されていないことは予想通りだ。これらのことを次回のプランでは改善が必要だろう。アンケート結果を踏まえた、現時点での中間結果の報告を受けたが、一人ずつ意見等をお願いしたい。

○委員：

質問だが、芝久保地域の地域特性はアンケート結果には出てないのか。この数字は芝久保の結果と同じと考えていいのか。

○事務局（インテージ）：

データは芝久保と他地域の両方をあわせた結果。

○委員：

芝久保の地域特性とはどういったものなのか。家族構成と居住年数が違うという話だが、居住年数が長いということか。また、芝久保地域では年齢層は高いのか。

○事務局（インテージ）：

居住年数が他地域では短く、芝久保では長い。年齢層についてはほとんど変わらない。子どものいる地域が他地域に比べ、芝久保地域のほうが少なかった。実際の構成とは違うとは思う。

○委員：

健康づくりプランの認知度が低いとあるが、市民アンケートにおいて、計画内容についての質問だったのか。それとも計画があるかどうかを知っているかという質問だったのか。付随する質問は推進プランを知らなければ、もちろん答えられないだろう。今後全体を上げるには、周知が必要だが、広報が悪いのか、目標が漠然としすぎていて興味がわからないのかのいずれかなのだろうか。

○会長：

具体的には難しいだろう。検討する価値はあるが、広報はしても、内容までは知っている人はいない。

○事務局：

この2～3年についてはホームページや市民祭り等で告知しているので、認知は若干広がっている。

○会長：

認知については、かなり検討する価値がある。次回の策定には重点的なものになるだろう。

○委員：

色々な事業があるが、結局、色々な分野で、様々なフィールドで上がってくるため、1本化されていない。目標を立て広報しても、どの事業がどういったものか、市民には戸惑いがあるのかもしれない。

○会長：

プラン内容が細かすぎてわかりにくい。そのために周知徹底ができないのだろう。そこは反省点だ。次回重点的に取り組みたい。

○委員：

がんの減少項目について。基準値から進捗状況を上げたい。私はがんを担当しているが、各データをきちんと取り、正確に洗いなおしていきたいと思っている。今後成果が出ればと思っている。

全体的に細かい項目があるが、グループわけや横のつながり、整合性があってもいいのではないかという印象だ。

○会長：

データの取り方だが、若干あいまいなものがあり、罹患率など保健資料で上げられるデータがあれば、さらにデータが取れると思う。年齢調整死亡率は下がっているが、実際とは離れているのではないか。別データがあれば、検討してほしい。

○委員：

年齢調整死亡率自体の概念が難しいので、わかりづらい。

○会長：

本当にあてはまっているのか疑問はあるが、その点は次回検討したい。  
歯科については、かなりいい数字だがどうか。

○委員：

歯科については地域特性があるのではないだろうか。校医がいれば学区によっていい悪いが違う。芝久保はいいほうだ。それが他地区に行くと落ちてくる。データによっては地域特性が出てくる。

全体的には、頭では健康について「こうするといい」と理解しているが、実際に行動に移すとなるとバツ印がつく。頭の中で思っていることとやっていることが全然違う。例えばタバコは体に悪いとわかっているが吸ってしまう、お酒をやめればいいと思うけれど飲んでしまうという傾向がある。そういった行動様式を変えていかないと、いくらデータをとってもそこで終わってしまうのではないだろうか。

○委員：

まずは健康プランの認知（周知）が必要だ。行動目標を意識し、参考にして実践している人はほぼいない。この健康づくりプランがあってもなくても、この数字だろう。それぞれ個人が健康のために努力している結果については否定できないので、このデータは実態として理解すればいいのだろう。せっかく作ろうとしているので、このプランをしっかりと周知してほしい。少しでも参考にしてもらい、数値がよくなればと思う。

目標が100パーセントで進捗がバツというものは、進捗をつけないか設定値を変更したほうがいいのかではないだろうか。

○会長：

行動目標の設定値は次回の検討課題としたい。

○委員：

健康づくりプランの冊子をあまり見たことがない。この冊子は市内全戸に配布したのか。

○事務局：  
全戸配布はしていない。

○委員：  
医療機関に来る人は興味を示しやすいかと思う。興味を持てるパンフレットを医療機関等に配布し、興味がある市民にはもっと詳しい冊子を渡せばいいのではないか。そういう工夫がないと、いくら作っても見てもらえない。第一段階として、興味を示す場所にパンフレットを設置し、興味を持ってもらうことが先ではないだろうか。

○会長：  
まず知ってもらうことが最重点課題だ。次のプランでは確実に周知活動をする。

○事務局：  
前は概要版を作ったが、市民が一目見てわかるようなもの、重点的なもの（重点目標）を掲載したものを考えたい。

○委員：  
医療機関の方たちが力を入れることはわかるが、市民はこのアンケート結果を知ることはない。市報を通じて結果を報告し、プランを示したほうがわかりやすいのではないか。

○会長：  
アンケート結果は市報に出すのか。

○事務局：  
時期は決まっていないが、概要結果はお知らせする。

○委員：  
一番は広報不足だと思う。健康づくり推進プランについて一般市民はほとんど知らないで、この結果は当然だろう。もっと市報、パンフレット等でも周知し、市民に興味を持たせないと好結果にはつながらないだろう。

○委員：  
市民からすると特別な意識はないので、目を引くものを作り、市報やパンフレットから入りやすくしないとそのままだろう。

○委員：  
高齢者が増え認知症になる人が増えてくることを考えるときに、このデータをどう利用するのだろうか。これから施策を始めるとして、データを見てどうしたらいいのかわからない。認知症になっている人をどのように医療体制に組んでいくか、増加傾向の中

で病院に受け入れてもらえない現実もある。新たに患者のためにどのように医療提供するかということも必要だ。このデータを利用して、実現できるようなものを作ってほしい。

○会長：  
ここに具体的に足りないものはあるか。

○委員：  
認知症について言えば、西東京市の65歳以上の人数割合などが、わかれば事前予防として検討していく価値はある。

○会長：  
確かに認知症に関してはデータがない。

○委員：  
この健康づくりプランは罹患率を下げるとか健康な人を増やすという意味合いで、予防的なことが多くある。認知症で言えば、受け入れ体制ではなく認知症予防教室といったものがあればと思う。

○会長：  
どちらかといえば健康づくりで疾患を予防するというものだ。

○委員：  
何らかの認知症に対する予防策があればと思う。

○会長：  
ここにはないので次回のプランには入れていいのかもしれない。

○委員：  
アンケート期間が10月～11月ということだったが、去年は震災のことも影響にあったのではないだろうか。その関係でストレスを感じていたり、子どもを外で遊ばせることが減ったのではないか。震災がなく、通常であれば結果が少し違ったのかと思う。  
野菜の摂取に関してだが、母親は用意しているが子どもが食べないのか、もともと用意してないのか、どっちなのか気になった。

○委員：  
活用率の低さが気になる。市民がどんなときに活用するのだろうかと考えると、見る人が少ないのではと思う。市民にどんなときに活用してほしいのか、または活用をするという想定を基に作っているのか、活用目標をはっきりさせないと、そういう方法が必要ではないだろうか。また対象者が市民、行政、医療関係者など広すぎて、誰を対象としているプランなのか、わかりにくく、一般市民には有効に伝わっていないのではないだろうか。この統計資料を見て一般市民はどう思うのか。役に立つのだろうか。行政や医療関係者には必要な資料だが、一般市民はどう活用するのだろうか。有効なデータで

はあるが、市民行動目標をもっと膨らませて、マニュアル化（こういうときはここに相談にいけばいい、こういう施設がある、こうすればいいなど）したほうが市民にはわかりやすいのではないだろうか。市民行動目標をもう少し膨らませていくような方向でプランをつくれれば、市民が活用できるのではと思う。

○会長：

確かに行動目標を膨らませて、うまく理解できるように次のプランをつくる必要があるだろう。データはある程度は必要だが、一般市民には活用できないだろう。行動目標に結びつくということを知りやすく作ってほしい。

○委員：

自分の健康は自分で守るということは基本だが、やはりその健康を守るためには、まずひとつは自分の健康がどうなっているかを知るための健康診断は大事だろう。この結果を見ると全体的に健康診断受診率は高い。健康診断で自分の体をチェックしその結果、運動が必要とか、その他の活動に参加するなど色々な方法があるだろう。アンケート結果でいうと、自分の健康活動あるいは意識的な運動については、中高生は非常に高い結果だが全体的には難しい。数値をあげる方法や、必要なことを考えるべきだろう。

推進プランの市民認知率が低い、認知率アップのためにはどうするか。推進プランの認知が全体として30パーセントくらいになれば認知率が上がったと思えるだろう。広報活動をどう展開していくか、どんな方法があるかなど検討が必要で大事になってくるだろう。自治会が少なくなり核家族が増えたことも情報が入ってこない原因のひとつだろう。また各団体やサークル等がたくさんあるので、それらを通じて健康づくりを市民に広げるなど具体的な案がない。地域に密着して活動を展開していくかどうか見えない。たくさんあるサークルや団体を通して、活動展開をすることが今後の市民意識を高めるためには必要だと考える。

○会長：

いかに広報して認知してもらおうか。具体的ではなく、広報はいかに簡略して、認知してもらおうかがポイントだろう。

○委員：

市報はどのくらい読まれているのか。全戸配布をしているのか。

○事務局：

全戸配布しているが、読んでいるかは不明だ。プラン作成などは必ず掲載している。

○会長：

プランは市のホームページにも掲載しているのか。

○事務局：

ホームページには掲載している。

○委員：

健康に関心がない20～50歳代の人あまり市報を見ない。子どもがいる人は見る。子どもがいる人に周知させようと思うと母親教室などで周知できるが、健康で若い人たちの関心をどうするか。対象者が広いが、年代にターゲットを絞って、認知率を上げたほうがいいのかもわからない。

○事務局：

場合によっては年代にあわせた目標を決めていく必要があるのかもわからない。

○会長：

広報については、工夫する必要があるだろう。

○事務局：

協議会の意見は事務局で整理、現時点でのまとめとして次回提示する。

### (3) その他

○会長：

以上。次回予定について

○事務局：

2月と3月に協議会を予定している。2月は市民アンケート分析結果報告。3月は今回の意見を参考に現時点でのプランのまとめをお願いします。

次回2月10日（金曜日）13時15分～ 場所は後日連絡とする。